

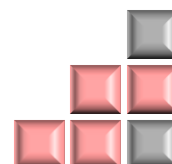
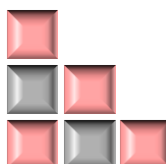
＜道徳の時間 指導資料＞

「特別の教科 道徳」の実施に向けて



平成28年（2016年）11月

旭川市教育委員会



〔目 次〕

○はじめに	… 1
I 本市の児童生徒の道徳性に関わる傾向	
1 本市児童に関わる傾向	… 2
2 本市生徒に関わる傾向	… 3
II 道徳の時間における指導	
1 学習指導過程の各段階における指導	… 4
2 「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえた指導例	
・読み物教材中心の学習	
（小学校）	… 6
（中学校）	… 8
・問題解決的な学習	
（小学校）	… 10
（中学校）	… 12
・体験的な学習	
（小学校）	… 14
（中学校）	… 16
・いじめの問題への対応を図る学習	
（小学校）	… 18
（中学校）	… 20
III 「特別の教科 道徳」に関わるQ&A	
・学習指導要領の一部改正による道徳教育の改善の方向性は どのようになっていますか？	… 22
・「特別の教科 道徳」の目標は何ですか？	… 22
・道徳性とは何ですか？	… 23
・「道徳的判断力」，「道徳的心情」，「道徳的实践意欲と態度」 とは何ですか？	… 23
・「特別の教科 道徳」において，内容項目はどのように変わ りましたか？	… 24
・新たに加えられた内容項目の指導の要点はどのようになっ ていますか？	… 24
・「特別の教科 道徳」の指導の基本方針にはどのようなもの がありますか？	… 25
・各教科等と関連をもたせた指導はどのように行くと良いで すか？	… 25
○おわりに 作成協力者 引用・参考文献	… 26

はじめに

平成２７年３月に学校教育法施行規則の一部が改正され、「道徳」が「特別の教科 道徳」とされるとともに、小学校、中学校及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の一部改正が告示されました。今回の改正は、答えが１つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題として捉え、向き合う「考え、議論する道徳」へと転換を図るものであり、いじめの問題への対応の充実や、発達の段階をより一層踏まえた体系的なものとする観点からの内容の改善、問題解決的な学習を取り入れるなどの指導方法の工夫等を示しています。

また、小学校及び特別支援学校小学部では平成３０年度から、中学校及び特別支援学校中学部では平成３１年度から「特別の教科 道徳」が全面実施されることとなり、既に平成２７年度から移行措置期間として、一部改正学習指導要領の趣旨を踏まえた取組が可能となっています。

そのため、旭川市教育委員会においては、道徳教育の要である道徳の時間の充実を図ることが重要であると考え、本指導資料を作成しました。また、作成に当たっては、児童生徒の実態を踏まえて重点的に指導する内容を明確にした上で道徳の時間の授業を構築することが、児童生徒の道徳性を養うために大切であると考えました。そこで、本指導資料では、本市児童生徒の道徳性に関わる実態把握を行い、その分析結果を基に指導例として取り上げる内容項目を選定しています。

各学校においては、これまでも児童生徒の道徳性を養うために、道徳の時間を要として学校のあらゆる教育活動を通じて道徳教育に取り組んでいただいていたところですが、「特別の教科 道徳」の全面実施に向けて、指導計画や指導方法の工夫等を通して、授業改善を図ることが求められています。

道徳の時間における指導の一層の充実に向け、本指導資料を積極的に活用していただくようお願いします。

Ⅰ. 本市の児童生徒の道徳性に関わる傾向

各学校においては、児童生徒や学校の実態などを考慮して道徳教育の目標を設定し、重点的な指導を工夫することが求められています。重点的な指導とは、各学年段階で重点化されている内容項目や学校として重点的に指導したい内容項目を選び、教育活動全体を通じた道徳教育において具体的な指導を行うことです。

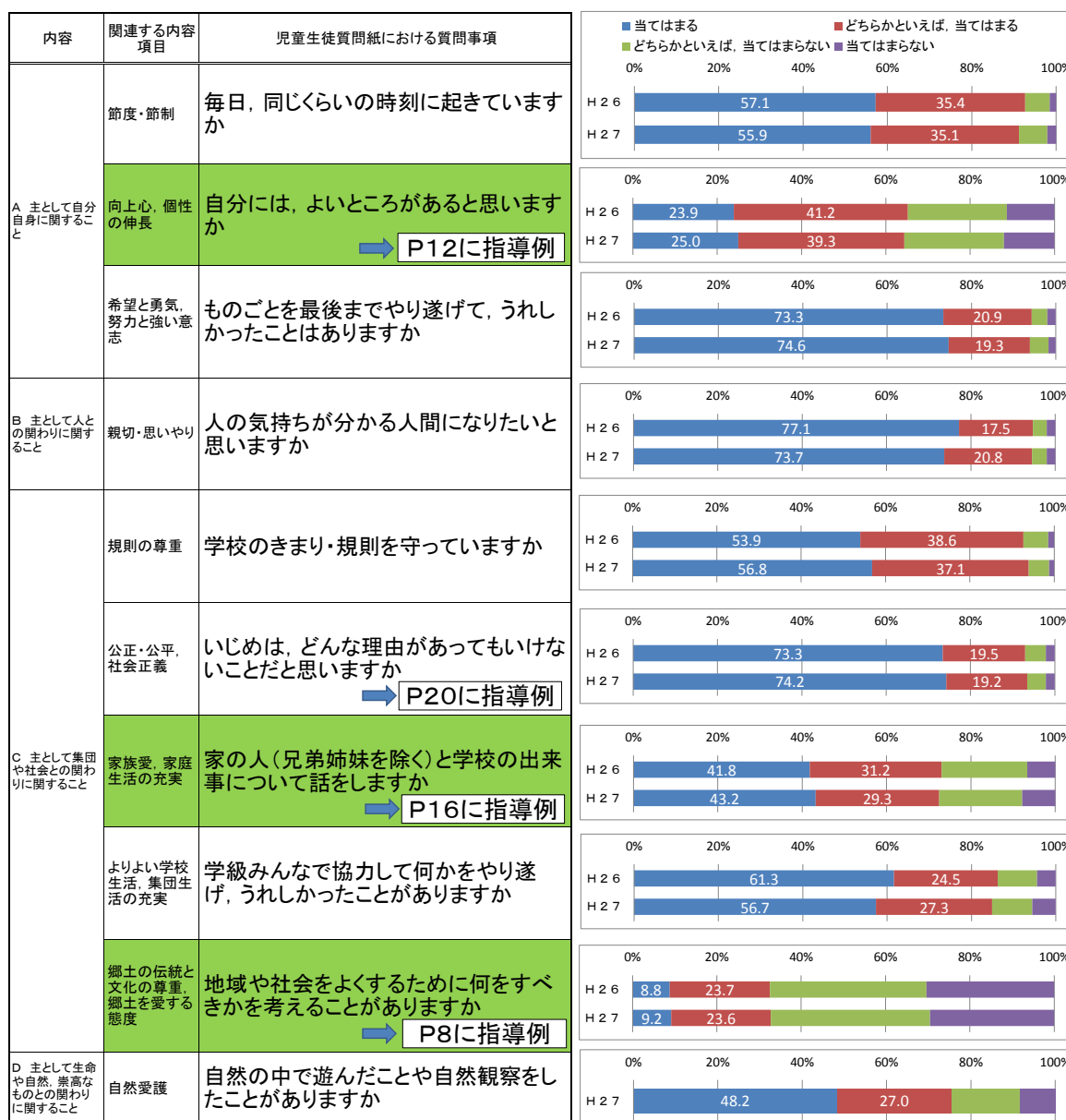
重点的な指導を行う内容項目を決定する際には、学校や児童生徒の実態を把握することが大切です。

本指導資料では、本市の児童生徒の道徳性に関わる状況を把握するために、平成26年度及び平成27年度の全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の調査結果を活用しています。

1 本市児童に関わる傾向

内容	関連する内容項目	児童生徒質問紙における質問事項	
A. 主として自分自身に関すること	節度・節制	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	
	個性の伸長	自分には、よいところがあると思いますか → P14に指導例	
	希望と勇気、努力と強い意志	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことはありますか	
B. 主として人との関わりに関すること	親切・思いやり	人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか	
C. 主として集団や社会との関わりに関すること	規則の尊重	学校のきまり・規則を守っていますか	
	公正・公平、社会正義	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	
	家族愛、家庭生活の充実	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校の出来事について話をしますか → P10に指導例	
	よりよい学校生活、集団生活の充実	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか	
	伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	今住んでいる地域の行事に参加していますか → P6に指導例	
D. 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	自然愛護	自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか	

2 本市生徒に関わる傾向



平成26年度及び平成27年度に実施した全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査の結果から、本市児童生徒は「個性の伸長」，「家族愛，家庭生活の充実」，「伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度」※（郷土の伝統と文化の尊重，郷土を愛する態度）に関わる質問の3つについて肯定的に回答した割合が，他の内容項目に肯定的に回答した割合より低い傾向が見られることが分かります。

本質問紙調査の質問事項は全ての内容項目を網羅するものではありませんが本質問紙調査の結果を分析することは，児童生徒の実態を把握する上で有効な方法の1つであると考えます。本指導資料では，児童生徒が肯定的に回答した割合が低い3つの内容項目を指導例として取り上げました。

※（ ）は中学校

Ⅱ．道徳の時間における指導

「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえた道徳の時間の指導においては、児童生徒一人一人が道徳的諸価値についての理解を基に自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深めることで道徳性を養うという特質を十分考慮し、それに応じた学習指導過程や指導方法を工夫することが大切です。それとともに、児童生徒が自らのよさや成長を実感できるように工夫することが求められています。

なお、多様な指導方法については、平成28年7月に、道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門会議が報告した『「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告）」に例示されている「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」、「問題解決的な学習」、「道徳的行為に関する体験的な学習」を参考にしています。

1 学習指導過程の各段階における指導

学習指導過程には、特に決められた形式はありませんが、一般的には以下のように、導入、展開、終末の各段階を設定することが広く行われており、各段階のねらいを達成するための指導の方法としては、次のようなことが考えられます。

導 入	主題に対する児童生徒の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階 導入の段階では、本時の主題に関わる問題意識を高めたり、教材の内容に興味をもたせたりすることなどが考えられます。また、展開や終末の段階を確保するために、短時間で行うよう計画することが大切です。 <指導方法の工夫例> ○ 教材を提示する工夫 ・ 人形やペープサートなどを生かした劇による提示 ・ 写真やビデオなどの映像による提示（ICTの活用） ・ 精選した情報の提示 など
展 開	中心的な教材によって、児童生徒一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる段階 展開の段階では、教材に描かれている道徳的価値に対する児童生徒一人一人の考え方や感じ方を生かしたり、物事を多面的・多角的に考えたり、児童生徒が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめるなどの学習に留意することが大切です。

<指導方法の工夫例>

○発問の工夫

- ・児童生徒にとって考える必然性や切実感のある発問
 - ・自由な思考を促す発問
 - ・物事を多面的・多角的に考えたりする発問
- など

○話合いの工夫

- ・考えを出し合う、比較するなどの目的に応じ、効果的に話合いが行われるようなペアやグループによる話合い
- など

○書く活動の工夫

- ・学習を継続的に深めさせるための一冊のノートなどの活用
- など

○動作化、役割演技など表現活動の工夫

- ・特定の役割を与えて即興的に演技する役割演技
 - ・動きや言葉を模倣して理解を深める動作化
 - ・実際の場面の追体験や道徳的行為の実施
- など

○板書を生かす工夫

- ・児童生徒の思考の流れや順序を示すような順接的な板書
 - ・教師の明確な意図をもった対比的、構造的な板書
 - ・中心部分を浮き立たせる板書
- など

終 末

ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階

終末の段階では、本時の学習を通して考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことを更に深く心にとどめたり、これからへの思いや課題について考えたりする学習活動などを行うことが考えられます。

<指導方法の工夫例>

○説話の工夫

- ・児童生徒が道徳的価値をより身近に感じられるようにするために教師の体験や願い、様々な事象についての所感などを語る
- など

○振り返りの工夫

- ・学習を通して感じたことや考えたことを、道徳ノートやワークシートなどにまとめさせる
- など

Point



学習指導を構想する際には、学級の実態、児童生徒の発達の段階、指導の内容や意図、教材の特質、他の教育活動との関連などに応じて柔軟な発想をもつことが大切です。そのことにより、例えば「多様な教材を生かした指導」や「体験の生かし方を工夫した指導」、「各教科等と関連をもたせた指導」などを構想することができます。

読み物教材中心の学習 小学校（第2学年）

取り上げた内容項目

伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度

「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」に関する児童の実態から

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は60％程度であることから、地域の行事に関心をもたせ、参加しようとする気持ちを高めていきたい。

生活（6月）「発見！町へとび出そう」

- ・自分たちの生活や地域の出来事を、身近な人々と伝え合う活動を通して、地域や身近な人々と関わることへの関心をもたせる。

国語（6月）「いなばの白うさぎ」

- ・古くから伝わるお話に接することを通して、自分の住む地域に伝わる伝承があることについて知り、それらに触れてみたいという意欲をもたせる。

○主 題 名：「ふるさとを大切に思う心」C－（15）

○実施時期：7月

○資 料 名：「ぎおんまつり」【「私たちの道徳」（小学校1・2年）P154～157】

○ね ら い：郷土の文化や生活に親しみをもち、進んで地域に関わろうとする態度を育てる。

段階	学習活動	主な発問等
導入	1 旭川市で行われているお祭りについて知っていることを話し合う。	○旭川市で行われているお祭りで知っているものはありますか。  ↑【旭川冬まつりの写真】 （予想される児童の発言） ・旭川冬まつりに行ったことがある。 ・夏祭りを見たことがある。
	2 「ぎおんまつり」の読み聞かせを聞き、「ぼく」の心情を自分との関わりで考える。	○見物している人たちから拍手がおこったとき、「ぼく」はどんなことを思ったでしょう。 （予想される児童の発言） ・たくさんの人の拍手と歓声を聞いてうれしい。 ・頑張って練習をして、うまくいったよかった。

「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえた指導のポイント

◆具体的な写真を提示することにより、児童にイメージをもたせ、本時で学習する内容項目に対する関心を高めます。（ICTの活用）

◆児童生徒が、本時でねらいとする道徳的価値を意識化できるようにしています。

段階	学習活動	主な発問等	
展開		○「ぼく」は、どうしてお父さんに「やめたい」と言ったのでしょうか。 (予想される児童の発言) ・上手にできなくてくやしから。 ・お父さんに叱られるかもしれないから。	◆人間の弱さについても理解させること（人間理解）を通して、道徳的価値の理解を深めていきます。
	自分が「ぼく」だったら、お父さんの言葉を聞いて、どのように答えますか。		◆本時で扱う道徳的価値を自分との関わりで捉えさせます。
	3 本時の授業を踏まえ、旭川市で長く続いているお祭りの中で参加してみたいものや、そう思った理由を交流し、自分の考えを深める。 旭川市のお祭りなどで参加してみたいものがありますか。また、どうしてそう考えたのですか。	(予想される児童の発言) ・みんなが楽しみにしているお祭りを成功させたいから、もう少しがんばってみよう。 ・千年続いてきた「ぎおんまつり」を守りたい。	★「中心的な発問」と「自己（人間として）の生き方について考えさせる発問」について ・「中心的な発問」は、授業のねらいに深く関わる発問であり、本指導資料では特に自分との関わりで道徳的諸価値を理解させることをねらっています。 ・「自己（人間として）の生き方について考えさせる発問」は、道徳的諸価値の理解を基に自分の生活を見つめさせることをねらっています。
終末		(予想される児童の発言) ・冬まつりの雪像づくりに挑戦して、自分の作った雪像を多くの人に見てもらいたい。 ・地域の盆踊りに参加して、たくさんの人と仲良くなりたい。	◆展開前段で理解した道徳的価値に基づいて、自分と地域の関係を捉え直したり、それらを交流して自分の考えを深めます。
	4 教師の説話を聞く。	○旭川市で行われるお祭りなどに参加して楽しかった時のことについて話す。	
	5 本時の学習を振り返る。	○今日の学習で考えたことを振り返り、ノートにまとめましょう。	◆教師が身近な行事等に参加し、楽しかったことを伝えるなど、地域に一層親しみがもてるようにします。

特別活動（7月）「夏休みの計画」

- ・夏休みを楽しく過ごすために、規則正しい生活の仕方や家庭学習への取り組み方、地域の行事等への関わり方などについて考え、話し合う。

（授業づくりのポイント①）

読み物教材中心の学習では、児童生徒が登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えさせるように発問を工夫するなど、本時で扱う道徳的価値の理解を深めるようにすることが大切です。

読み物教材中心の学習 中学校（第2学年）

取り上げた内容項目

郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度

「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」に関する生徒の実態から「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」という質問に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は30%程度であることから、地域の一員としての意識を高めていきたい。

総合的な学習の時間（9月）「地域交流学習」

- ・自分たちが住む郷土について調べたり、地域に出かけ、調査・体験・作業活動を行う。

国語（9月）「盆土産」

- ・家族一人一人が互いの存在感を感じ取り、思いやりながら生活しているさまから、郷土愛や家族愛を感じ取りながら読み取る。

○主 題 名：「ふるさとの発展のために」C－（16）

○実施時期：10月

○資 料 名：「ロックンローラー」【「中学校道徳読み物資料集平成24年3月」P66～69】

○ね ら い：地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで地域に関わろうとする態度を育てる。

段階	学習活動	主な発問等
導入	1 自分が住んでいる地域のよさや好きなところについて交流する。（私たちの道徳201ページに記入）	○自分が住んでいる地域のよさや好きなところはどんなところですか。  ↑【旭川の街並みの写真】
展開	2 「ロックンローラー」の読み聞かせを聞き、「私」の心情を自分との関わりで類推する。	郷土である旭川に、どのように関わっていけばいいのだろうか。 ○本屋の潤ちゃんから「友達を集めろ」と言われた「私」はどんなことを思ったでしょう。 （予想される生徒の発言） ・ どうして私がそんなことをやるの。 ・ 面倒くさい。嫌だな。 ○「私」は話合いをしていくうちに、だんだん楽しくなってきた、他の友達にも声をかけようと思ったのは、なぜでしょう。 （予想される生徒の発言） ・ いろんなアイデアが出てきて、おじさんたちの熱気が面白く感じたから。 ・ 自分にも何かできるかもしれないと思ったから。

「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえた指導のポイント

◆具体的な写真を提示することにより、生徒にイメージをもたせ、本時で学習する内容項目に対する関心を高めます。（ICTの活用）

◆資料の展開をイメージさせながら、主人公の心情の移り変わりを捉えさせます。

段階	学習活動	主な発問等
展開		○「私」はどんなことを考えて、「銀座商店街4代目か、悪くないね」と言ったのでしょうか。 (予想される生徒の発言) ・おじさんたちに負けられない。私も頑張るぞ。 ・銀座商店街の未来は、自分たちで切り開けそうだ。
	自分だったら、主人公のように考え、行動することができるだろうか。	
	3 本時の授業を踏まえ、自分たちが旭川市のためにできることについて考えたことを交流し、自分の考えを深める。	(予想される生徒の発言) ・自分だったら、時代の流れには逆らえないと考え、何もせず諦めたかもしれない。 ・何とかしようと思い、友達や周りの大人に相談するかもしれない。
終末	旭川市のために、自分たちがこれからできる取組には、どのようなことがあるだろうか。	
	4 教師の説話を聞く。	○旭川市で行事等を受け継いでいる人たちが、どのような思いで活動をしているのかについて話す。
	5 本時の学習を振り返る。	○今日の学習で考えたことを振り返り、ノートにまとめましょう。

中心的な発問

◆本時で扱う道徳的価値を自分との関わりで捉えさせます。

人間としての生き方について考えさせる発問

◆展開前段で理解した道徳的価値に基づき、道徳的価値を自分との関係で捉えたり、それらを交流して自分の考えを深めたりします。

◆教師の説話では、教師の体験談や日常の話題、学校・学級での出来事を話すなどして、実践への意欲化を図ります。

外国語（12月）「Presentation2 町紹介」

・学んだ表現を使って自分の町のことについて発表したり、友達の発表を聞いたりして、自分の町への愛着を抱く心を育む。

技術・家庭 家庭分野（1月）「地域の食材と食文化」

・地域の食材を生かす調理などを通して、地域の食文化についての理解を深める。

（授業づくりのポイント②）

読み物教材を取り扱う場合、教師が明確な主題設定を行った指導観に基づく発問でなければ、登場人物の心情の理解のみの指導となりかねません。教材の登場人物の判断や心情を自分との関わりで多面的・多角的に考えることなどを通して、本時で扱う道徳的価値の理解を深めるようにすることが大切です。

問題解決的な学習 小学校（第3学年）

取り上げた内容項目

家族愛、家庭生活の充実

「家族愛、家庭生活の充実」に関する児童の実態から

「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校の出来事について話をしますか」という質問に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は70％程度であることから、家族との関わりの大切さを一層実感させていきたい。

特別活動（7月）「夏休みの計画」

- ・充実した夏休みになるように、学習や生活に加え、家族の一員として、自分にできるお手伝いについて計画を考えたり、話し合ったりする。

国語（10月）「ちいちゃんのかげおくり」

- ・家族全員でかげおくりをしたときや、一人になったときの主人公の心情を読み取ることを通して、家族の絆の大切さを感じる。

○主 題 名：「家族を思う心」C－（14）

○実施時期：11月

○資 料 名：「ブラッドレーのせい求書」【「小学校道徳 読み物資料集」P142～145】

○ね ら い：父母を敬い、家族と力を合わせて、楽しい家庭を築こうとする心情を育てる。

段階	学習活動	主な発問等
導入	1 自分の体験を話し合う。	○皆さんは、家でどのようなお手伝いをしていますか。 （予想される児童の発言） ・お風呂掃除 ・茶碗洗い ○どのような気持ちで、自分たちはお手伝いをしているのでしょうか。 （予想される児童の発言） ・言われているから。 ・しないと怒られるから。 ○家族がしている仕事にはどのようなものがありますか。 （予想される児童の発言） ・ご飯の準備 ・弟の世話
	2 「ブラッドレーのせい求書」の読み聞かせを聞き、「ぼく」の心情を自分との関わりで考える。	○ブラッドレーは、どんな気持ちで請求書を書いたのでしょうか。 （予想される児童の発言） ・仕事をしたらお金をもらうのは当たり前だ。 ・お手伝いをしてあげているんだから。
展開	どのような気持ちで、家族はその仕事をしているのだろうか。 	

「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえた指導のポイント

◆問題意識を醸成するための方法としては、
①資料の気付きからの問題設定
②日常の問題意識からの問題設定
③社会問題の共有からの問題設定などが考えられます。
本指導例は②で行っています。

◆問題解決的な学習を行う場合は、最初から、取り上げる問題を児童に与えるのではなく、分からない自分に気付かせたり、知りたいたいと思わせたりするなどして、問題を焦点化していくことが大切です。ただし、後の学習時間を確保することにつながるために、短時間で行うよう留意する必要があります。

段階	学習活動	主な発問等
展開		○お金をもらうことができたとき、ブラッドレーはどのような気持ちだったのでしょうか。 (予想される児童の発言) ・本当にもらうことができた。うれしい。
	喜んでいたブラッドレーが泣いたのは、どんなことに気付いたからでしょうか。	
		(予想される児童の発言) ・自分は間違っていたこと。 ・お母さんの思い。 ○お母さんは、どのような気持ちで家の仕事をしていたのでしょうか。 (予想される児童の発言) ・家族に喜んでもらえるように。 ・家族が気持ちよく生活できるように。
	3 本時の授業を踏まえ、家族の関わり方について考えたことを交流し、自分の考えを深める。	
終末	自分たちは、家の仕事(お手伝い)をどのように取り組んでいたのでしょうか。	(予想される児童の発言) ※家族のことを考えていた行動 ・お父さんが帰ってくる前に雪はねをした。 ※家族のことを考えていなかった行動 ・ブラッドレーのように小遣いをねだっていた。
	4 保護者からの手紙を読む。	○皆さんのお家の人からの手紙を預かっているの、読んでみてください。
	5 本時の学習を振り返る。	○より良い家族の関わり方について、どのような考えをもったか自分の考え書きましょう。

中心的な発問

◆発問を行う際には、本時で扱う内容項目からぶれないようにすることが大切です。本実践では働くことの大切さを扱う「勤労」ではなく、家族の関わり方を扱う「家族愛」であることを意識しています。

自己の生き方について考えさせる発問

◆家庭との連携については、事前に保護者へ手紙に書いてほしい内容を伝えておきます。

◆感想を書かせる場合は、「学習前の考えと、学習後の考えがどのように変わったか」、「友達の意見を聞いてなるほどと思った考えは何か」など、どのようなことを書くかを指導することが大切です。

特別活動(12月)「冬休みの計画」

・充実した冬休みになるように、学習や生活に加え、家族の一員として、自分ができるお手伝いについて計画を立てたり、話し合ったりする。

(授業づくりのポイント①)

上記は、問題解決的な学習の一例であり、「型」として固定的に捉えることがないようにすることが大切です。

問題解決的な学習を取り入れた場合には、その課題を自分との関わりで見つめたときに、自分にはどのようなよさがあるのか、どのような改善すべきことがあるのかなどについて考え、話し合うことを通して、児童生徒一人一人が課題に対する答えを導き出せるようにすることが大切です。

問題解決的な学習 中学校（第1学年）

取り上げた内容項目

向上心、個性の伸長

「向上心、個性の伸長」に関する生徒の実態から

「自分にはよいところがある」という質問に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合は60％程度であることから、自分のよさを理解し、それを伸ばしていこうとする態度につなげていきたい。

特別活動（6月）「進路について考えよう」

- ・将来の職業や希望とする進路や進学先等について考える際、自分らしさについて考える。

外国語（7月）「メイの好きなもの Project1」

- ・自己紹介をしよう！の活動において、英語で自己紹介文を書いたり発表したりする。

○主題名：「自己の向上」A－（3）

○実施時期：7月

○資料名：【「私たちの道徳」（中学校）P39～40，42】

○ねらい：ありのままの自分を肯定的にとらえ、よさを見付けることができる。

段階	学習活動	主な発問等
導入	1 自分の好きなところや好きではないところについて考える。	○自分のことが好きだという人はいますか。 ○自分の好きなところを発表してください。 （予想される生徒の発言） ・明るく、面白いところ。 ・部活動に一生懸命取り組んでいるところ。 ○自分のことが好きではないという人は、その理由を道徳シートに書いてください。 （予想される生徒の発言） ・欠点や短所が目立つから好きになれない。 ・自分にはよいところがないから。
	2 「丸ごと自分を好きになる」の読み聞かせから、自分を好きになるためにはどうしたらよいのかということについて、課題意識をもつ。	
展開	「丸ごと自分を好きになる」ためにはどうしたらよいのかについて考えよう。	
	3 「あなたらしさがあなたの良さになる」を読み、自分のよさを見付けるために、グループで話合う。	○友達から自分のよさや優れている面を見付けてもらい、道徳シートに書きましょう。 （指示事項） ①グループになって、相手のよいところのみを言う。欠点は発言しない。 ②よさを見付けてくれた相手に「ありがとう」と必ず言葉を返す。 ③友達に見付けてもらった自分のよさを道徳シートにメモする。

「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえた指導のポイント

◆問題意識を醸成するために、自分の好きなところやその理由を書く時間を確保します。

段階	学習活動	主な発問等
展開	4 自分の欠点や短所を、よさに変えることができないかを考える。	○他者から見付けてもらった自分のよさを、最初にした「自分が好きではない理由」と照らし合わせ、表題「あなたらしさがあなたの良さになる」を自分ごととして捉えて考えると、自分をどう捉えたらよいか、自分の考えを道徳シートに書きましょう。
	なぜ、あなたはそう考えたのですか。	
	5 P 42 のメッセージ「医師になったからには最期は人の役に立って死にたいと思っています。」という山中伸弥さんの文を読み、これからの自分の生活について考える。	(予想される生徒の発言) ・自分が気付いていなかったことも、自分のよさになる可能性があると思ったから。
終末	山中教授のメッセージと今日考えたことと照らし合わせると、自分のこれからの生活で、どのような考えをもつことが、よい生活につながると考えますか。	
	6 本時の学習を振り返る。	○今日の学習で考えたことを振り返り、ノートにまとめましょう。

◆生徒が主体的に考えを導き出せるようにするために、他者から見付けてもらった自分のよさを、最初にした「自分が好きではない理由」と比較しながら、「あなたらしさがあなたの良さになる」をヒントに自分のよさについて考えさせます。

中心的な発問

◆問題に対する考えを交流させることで、多面的・多角的な見方ができるようにします。

人間としての生き方について考えさせる発問

◆本時でねらう道徳的価値について、自分なりによりよい生活へ発展させていくことを考えさせます。

特別活動（9月）「生徒会の一員として」

- ・学級や学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、集団におけるよりよい生活づくりに向けて、自分のよさを生かしてどんなことができるかについて考え、実践する。

（授業づくりのポイント②）

問題解決的な学習において、児童生徒一人一人が課題に対する答えを導き出すためには、授業では自分の気持ちや考えを発表することだけでなく、時間を確保してじっくりと自己を見つめて書くことも有効であり、指導方法の工夫は不可欠です。また、この場合、話し合う場面を設定する際に、ペアや少人数グループなどでの学習を導入することが目的化してしまうことがないよう、指導の意図に即して、取り入れられる手法が適切か否かをしっかり吟味する必要があります。

体験的な学習 小学校（第3学年）

取り上げた内容項目

個性の伸長

「個性の伸長」に関する児童の実態から

「自分にはよいところがある」という質問に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は70％程度であることから、自分のよさを理解し、それを伸ばしていこうとする態度につなげていきたい。

図画工作（4月）「色・形いい感じ！」

- ・自分の思いを絵の具で表現するとともに、作品のよさを紹介したり、友だちの作品のよさを見付けたりする。

国語（6月）「私とことりとすずと」

- ・詩を音読することを通して、私とことりとすず、それぞれに良いところがあることを感じとる。

○主 題 名：「自分のよさを生かす」A－（4）

○実施時期：8月

○教材名：「うれしく思えた日から」【「私たちの道徳」（小学校3・4年）P50～52】

○ねらい：自分のよさに気づき、自分のよいところを伸ばそうとする態度を育てる。

段階	学習活動	主な発問等
導入	1 自分のよさについて発表する。	○自分には、どんなよいところがありますか。 （予想される児童の発言） ・運動が得意なところ。 ・よいところが思いつかない。
	自分のよいところを伸ばしていくために大切なことについて考えよう。	
展開	2 「うれしく思えた日から」の範読を聞き、1年前の「ぼく」の気持ちについて考える。	○以前の「ぼく」は、自分のことをどのように思っていたでしょう。 （予想される児童の発言） ・自分には取り柄がない。 ・自分に自信がもてない。
	3 役割演技を通して、「いいかたをしているね」と言われたときの「ぼく」の気持ちを考える。	○先生や友達にほめられた時、僕はどんな気持ちになったでしょう。 （予想される児童の発言） ・みんなにほめられて、うれしい。 ・自分にも、いいところがあったんだ。
	4 1年前を振り返っている「ぼく」の気持ちを考える。	○「1年前のぼくじゃない」と言っている「ぼく」を変えた原因は何でしょう。 （予想される児童の発言） ・親や友達が認めてくれたこと。 ・友達の言葉を信じてがんばってきたこと。

「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえた指導のポイント

◆朝の会や学級活動などで事前に自分のよいところについて考えさせておき、短時間で効率的に導入を行うという工夫が考えられます。

◆本指導例では、実際に先生や友達から、ほめられる体験をすることで、ぼくの嬉しかった時の気持ちを感覚的に捉えさせることをねらっています。

◆自分のよいところに気づききっかけになったことが何かについて考えさせます。

段階	学習活動	主な発問等
展 開	5 自分のよいところを伸ばし、自信をつけた「ほく」の気持ちを考える。	
	ほくは、今の自分をどのように思っているでしょう。	(予想される児童の発言) ・先生や友達の励ましで自分に自信がもてた。 ・自分のよさが分かったから、苦しいときもがんばることができた。
	6 友達のよいところを見つけ、伝え合う。 7, 自分のよいところをさらに伸ばすためにできることを考える。	○友達に、相手のよいところを伝え合いましょう。
終 末	自分のよさを伸ばすためにできることを考えましょう。	(予想される児童の発言) 【よい所】 ・サッカーが上手だ。 ・困っている人に、やさしく声をかけている。 【できること】 ・毎日練習を続ける。 ・困っている人がいないか、周りの様子に注意する。
	8 教師の説話を聞く。	○友人の助言で気付いた自分のよいところについて話す。

中心的な発問

◆友達と交流し、自分のよいところを聞くことを通して、自分では気付いていないよさを実感させます。

自己の生き方について考えさせる発問

◆自分のよさを伸ばすためにできることを考えさせることで、気付いたよさを伸ばそうとする態度を育てることをねらいます。

◆本時のねらいに関わり、自分のよいところに気づき、自己を高めようとした経験を話すなどして、実践への意欲化を図ります。

特別活動(9月) 「学芸会に向けて」

- ・楽しい学芸会をつくるために、練習への参加態度について、これまでの反省を生かし、学芸会の全体目標から自分に合っためあてを考える。

(授業づくりのポイント①)

体験的な活動を取り入れた学習についても、問題解決的な学習と同様に、この指導例を「型」として固定的に捉えることがないようにすることが大切です。

体験的な学習を行う場合、単に体験的行為や活動そのものを目的として行うのではなく、授業の中に適切に取り入れ、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようにすることが重要です。

体験的な学習 中学校（第3年）

取り上げた内容項目

家族愛、家庭生活の充実

「家族愛、家庭生活の充実」に関する生徒の実態から

「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校の出来事について話をしますか」という質問に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合は70％程度であることから、家族との関わりの大切さを一層実感させていきたい。

技術・家庭 家庭分野（10月）「これからのわたしと家族」

- ・家庭や家族の基本的な機能と、家庭生活と地域との関わりについて理解するとともに、これからの自分と家族との関わりにも関心をもち、家族関係をより良くする方法を考える。

○主 題 名：「家族への愛情」C－（14）

○実施時期：11月

○教 材 名：「1冊のノート」【「私たちの道徳」（中学校）P186～193】

○ね ら い：かけがえのない家族の存在に気付き、その一員として関わり合いながら、充実した家庭生活を築こうとする態度を養う。

段階	学習活動	主な発問等
導 入	1 家族と一緒にいてよかったと思った経験について話し合う。	○あなたが家族と一緒にいて「いいな。」と思うのは、どのような時ですか。 （予想される生徒の発言） ・悩みを聞いてもらった時。 ・一緒に旅行に行った時。
展 開	家族との関わりについて考えよう。 【資料の前半部分を配付】 2 「1冊のノート」の読み聞かせを聞き、主人公「僕」の心情の変化について発問や役割演技を通して考える。	○「僕ら迷惑しているんだ」と言った「僕」は、「祖母」に対してどんな思いを抱いているだろう。 （予想される生徒の発言） ・怒りや腹立だしい思い。 ○買い物に行った「祖母」とすれ違う時の「僕」は、どんなことを考えて、知らん顔をして通り過ぎたのだろう。 （予想される生徒の発言） ・格好悪い。恥ずかしい。 ・友達に自分の家族だと知られたくない。 ○「僕」が「祖母」を激しくののしった場面を演じ、その時の「僕」の気持ちを想像しよう。 （予想される生徒の発言） ・なんてことをしてくれたんだ、おばあちゃん。 ・絶対におばあちゃんを許さないぞ。

「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえた指導のポイント

◆展開前段に発問が多く、役割演技の場面もあることから、展開前段はテンポよく進め、資料の展開や、主人公の心情を理解させます。

段階	学習活動	主な発問等
展開	【資料の後半部分を配付】 3 おばあちゃんのノートを読んだ後の「僕」の心情を役割演技を通して考える。 「僕」は「祖母」一緒に並んで草取りをしながら、心の中で何と書いて語っているのでしょうか。	(予想される生徒の発言) ・おばあちゃんの思いに気付かず、ひどいこと言っでごめんね。 ・今までありがとう、長生きしてね。
	4 本時を振り返り、「家族」について考えたことについて感想を書き、交流する。 今日の学習を通して、あなたは「家族」について、どんなことを考えましたか。	(予想される生徒の発言) ・自分は家族に支えられて生活していると思う。 ・家族の一員として、できることをしていきたい。
	5 教師の説話を聞く。	○家族のよさや、共に生活することのよさなどについて話す。
終末		

中心的な発問

◆展開後段の役割演技では、役割演技を通して、主人公の心情の移り変わりを捉えさせるとともに、その様子を見たことをもとに、問題場面において自分が取り得る行動について考え、道徳的価値の意味の理解を深めます。

人間としての生き方について考えさせる発問

◆展開後段で理解した道徳的価値に基づいて本時の授業を振り返り、道徳的価値を自分との関係で捉えたり、それらを交流して自分の考えを深めたりします。

特別活動（12月）「冬休みの過ごし方」

- ・自己のよさを生かすとともに、家族の一員として働くことなどに関心をもち、自主的、自律的に日常の生活や学習に取り組もうとする意識を高める。

（授業づくりのポイント②）

体験的な学習を取り入れる際には、単に活動を行って終わるのではなく、生徒が体験を通じて学んだことを振り返り、その意義について考えることが大切です。体験的な学習を通して道徳的価値の理解を深め、様々な課題や問題を主体的に解決するための資質・能力の育成に資するように十分に留意する必要があります。

いじめの問題への対応を図る学習 小学校（第5年）

取り上げた内容項目

生命の尊さ

いじめの問題に関する児童の実態から

「いじめは、どんな理由があってもいけない」という質問に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は90%以上であり、道徳的価値についての理解は高いことがうかがえることから、いじめを行わないという態度の育成につなげていきたい。

社会(11月)「長く続いた戦争と人々の暮らし」

- ・戦争によって失われたものの大きさや平和への願いについて考え、話し合う。

社会(12月)「わたしたちの生活と政治」

- ・東日本大震災によって被災した人々の願いを実現するために、どのようなことが必要であるかについて考え、話し合う。

○主 題 名：「命の尊さ」D-（19）

○実施時期：12月

○教 材 名：「その思いを受けつい」【「私たちの道徳」（小学校5・6年）P104～107】

○ね ら い：生命が尊くかけがえないものであることを感得し、自他の生命を尊重しようとする心を育てる。

段階	学習活動	主な発問等
導 入	1 「自分の命」に対して、どのようなイメージをもっているのか交流する。	○社会科で東日本大震災の学習をしましたね。この災害では多くの命が失われました。みなさんは「命」について、どのように考えましたか。 （予想される児童の発言） ・大切にしなければならない。 ・いつ、どうなるか分からない。 ○今日は命について話し合い、みんなで考えを深めていきましょう。
展 開	命についての考えを深めよう。 2 「その思いを受け継いで」の読み聞かせを聞き、「ぼく」や「じいちゃん」の心情について考える。	○なぜ「ぼく」は友達とも遊ばずに、毎日「じいちゃん」の所へ通ったのだと思いますか。 （予想される児童の発言） ・もうすぐ会えなくなってしまうから。 ・家族が一番大切だから。 ○「じいちゃん」のメッセージには、「ぼく」へのどのような思いが込められていると思いますか。 （予想される児童の発言） ・これから元気でいて。 ・あなたが大切なんだよ。

「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえた指導のポイント

◆事前に学習した内容を想起させることで、本時のねらいに対する児童の関心を高めます。

◆本時で扱う道徳的価値につながる発問を行う際には、文章から読み取らせるだけではなく、児童の経験や既存の価値観から「どのように思うか」を考えさせます。教師側は児童の考えを受け止めたり、つなげたりしながら板書に整理していきます。

段階	学習活動	主な発問等
展開		○「じいちゃん」の思いを受けた「ぼく」は、どのようなことを考えたと思いますか。 (予想される児童の発言) ・じいちゃんの分まで頑張ろう。 ・じいちゃんの思いを大切に生きていこう。
	3 本時の授業を踏まえ、「命について考えた自分の経験」を交流し、考えを深める。	(予想される児童の発言) ・命は自分だけのものではない。 ・自分の命は家族や周囲の人たちに支えられている。
	4 教師の説話を聞く。	○「わたしたちの道徳」にある「命てんでんこ」を紹介する。
終末	5 本時の学習を振り返る。	○今日の道徳の時間で考えたことを振り返り、ノートにまとめましょう。

中心的な発問

◆中心発問を行う際には、教師側からの押し付けにならないことが大切です。読み物資料を通して、ねらいとしている道徳的価値を児童自身が気付くことができるように発問を吟味することが大切です。

自己の生き方について考えさせる発問

◆自分の経験を本時でねらいとする価値と結びつけることで、より価値に対する理解を深めます。

◆ノートなどに振り返りを残していくことが大切です。その記録が児童にとって、自分の考えの変化を感じるものになるとともに、教師側の見取りにも活用できます。

特別活動(12月)「いじめを防ぐために」

・学級や学校で見られるいじめにつながる場面について交流する。それに対する対応策について考え、実践する。

家庭(1月)「共に生きる生活」

・身近な人々の生活や環境との関わりについて話し合い、よりよい生活の在り方を考える。

国語(2月)「海の命」

・「海の命」を読んで考えたことを話し合い、自分の考えを広げたり、深めたりする。

(授業づくりのポイント①)

いじめの問題への対応に関わり、年間にわたって位置付けた主題について、各教科等との関連を図ることで指導の効果が高められる場合は、指導の内容及び時期を配慮して年間指導計画に位置付けるなど、指導例にあるように具体的な関連の見通しをもつことができるようにすることが大切です。

いじめの問題への対応を図る学習 中学校（第3年）

取り上げた内容項目

公正・公平，社会正義

いじめの問題に関する生徒の実態から

「いじめは，どんな理由があってもいけない」という質問に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合は90%以上であり，道徳的価値についての理解は高いことがうかがえることから，いじめを行わないという態度の育成につなげていきたい。

社会 公民分野（9月）「基本的人権の尊重と平等権」

- ・「現代社会に残る差別」の中で社会的に残るいじめについて深く押さえる。

音楽（9月）「混声合唱の深まり」

- ・合唱コンクールに向けての合唱練習で，学級のまとまりや一人一人が認められる学級について意識して指導する。

国語（9月）「故郷」

- ・登場人物「閨土」が，当時の社会状況において，様々な立場から虐げられたことを理解させる。

○主 題 名：「いじめを許さぬ心」C－（11）

○実施時期：10月

○教 材 名：「卒業文集最後の二行」【「私たちの道徳」（中学校3年）P230～235】

○ね ら い：誰に対しても公正・公平に接し，差別や偏見のない社会の実現に努める。

段階	学習活動	主な発問等
導 入	1 学校祭の取組の写真を 見て，楽しかった活動を 想起する。	○先月行われた学校祭の反省 アンケートでは，たくさん の人が楽しかったと記入し ました。学校祭だけでなく， 毎日の学校生活も楽しいと いいですね。
	2 各教科で学習した，い じめに関わる内容を振り 返る。	○社会では「現代社会に残る 差別」を，国語の「故郷」 では当時社会にいじめられ た主人公，閨土について 学習しました。 ○今月は旭川市のいじめ・非 行防止強調月間です。そこ で今日はいじめに関わる内 容を考えましょう。
展 開	差別や偏見のない社会とは，どんな社会か考えよう。	
	3 読み物資料を読み， 「私」の心情を自分との 関わりで類推する。	○「私」は，がく然を通り越 して目の前が真っ白になり， 同時に真っ黒になったのに， 臆することなく答えたのは なぜでしょうか。 (予想される生徒の発言) ・自分がカンニングしたこ とがばれるとまずい。 ・このまま黙っていても分 からない。

「特別の教科 道徳」
の趣旨を踏まえた指
導のポイント

◆具体的な写真やアンケ
ートを提示すること
により，生徒にイメ
ージをもたせ，本時で学習
する内容項目に対する
関心を高めます。

◆学校祭で楽しく活動し
たことを思い出させる
とともに，各教科で学
んだいじめに関わる内
容を想起させます。

◆本資料では，語り手の
「私」の心情を類推さ
せることで，いじめに
関して，道徳的価値の
理解を深めます。

段階	学習活動	主な発問等
展 開		○「めぐせえどおもわねえのか。」と胸を反らせた「私」のことをどう思いますか。 (予想される生徒の発言) ・自分のことを棚にあげてどうしようもない。 ・自分も弱いので正直に言えないかも。 ○最後の二行を読んだときに「私」はどんなことを思ったでしょうか。 (予想される生徒の発言) ・T子さんに謝っても謝りきれぬものでない。 ・なぜあんなことをしてしまったのだろう。
	4 本時の感想を書き、いじめ撲滅メッセージカードに記入する。	(予想される生徒の発言) ・自分も弱い人間なので、「私」と同じようになってしまうかもしれない。 ・最初の嫌がらせを止めに入りたい。
	5 教師の説話を聞く。	○その後の筆者について、補足説明を行う。

中心的な発問

◆登場人物に自分を投影して、その判断や心情を考えることにより、道徳的価値の理解を深めます。

人間としての生き方について考えさせる発問

◆本時の感想やメッセージカードに記入することで、実践への意欲化を図ります。

特別活動（10月）「いじめ撲滅運動」

- ・全校集会で生徒会から「いじめ撲滅」宣言を行う。

保健体育（10月～11月）

「バスケットボール」
「バレーボール」

- ・チームで活動する中で、全員が楽しく活動できるように指導する。

美術（11月）「今を生きるあなたへ」

- ・自画像の鑑賞を通して、希望に満ちた未来が偏見や差別のない社会の上に成り立っていることを意識させる。

（授業づくりのポイント②）

いじめの問題への対応を図ることをねらった授業においては、自分はどうすべきか、自分に何ができるかを判断し、そのことを実行する手立てを考え、実践できるようにしていくなどの改善を図ることが大切です。

Ⅲ.「特別の教科 道徳」に関わるQ & A

Q 学習指導要領の一部改正による道徳教育の改善の方向性はどのようになっていますか？

- A**
- ① 道徳の時間を「特別の教科 道徳」として位置付けること。
 - ② 目標を明確で理解しやすいものに改善すること。
 - ③ 道徳教育の目標と「特別の教科 道徳」の目標の関係を明確にすること。
 - ④ 道徳の内容をより発達の段階を踏まえた体系的なものに改善すること。
 - ⑤ 多様で効果的な道徳教育の指導方法へと改善すること。
 - ⑥ 「特別の教科 道徳」に検定教科書を導入すること。
 - ⑦ 一人一人のよさを伸ばし、成長を促すための評価を充実すること。

Point



○「道徳教育の充実を図るためには、道徳の時間を教育課程上『特別の教科 道徳』（道徳科）として新たに位置付け、その目標、内容、教材や評価、指導体制の在り方等を見直すとともに、『特別の教科 道徳』（道徳科）を要として道徳教育の趣旨を踏まえた効果的な指導を学校の教育活動全体を通じてより確実に展開することができるよう、教育課程を改善することが必要」との考えの下、上記7点が示されました。

Q 「特別の教科 道徳」の目標は何ですか？

A よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
※（ ）は中学校

Point



- 「特別の教科 道徳」の目標が「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」とされ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と同一であることが分かりやすい表現になりました。
- 道徳的価値について自分との関わりも含めて理解し、それに基づいて内省し、多面的・多角的に考え、判断する能力、道徳的心情、道徳的行為を行うための意欲や態度を育てるという趣旨が明確化されました。
- よりよく生きていくための資質・能力を培うという趣旨が明確化されました。

Q 道徳性とは何ですか？

A

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳的判断力、道徳的心情、道徳の実践意欲と態度の諸様相から構成されています。

Point



○道徳性は、徐々に、しかも着実に養われることによって、潜在的、持続的な作用を行為や人格に及ぼすものであるだけに、長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導がなされ、道徳の実践につなげていくことができるようにすることが求められています。

Q 「道徳的判断力」、「道徳的心情」、「道徳の実践意欲と態度」とは何ですか？

A

道徳的判断力

それぞれの場面において善悪を判断する能力です。人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力です。

道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情です。人間としてのよりよい生き方や善を指向する感情であるとも言えます。道徳的行為への動機として強く作用するものです。

道徳の実践意欲と態度

道徳の実践意欲は、道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし、道徳的価値を実現しようとする意志の働きです。道徳的態度は、それらに裏付けられた具体的な道徳的行為への身構えです。

Point



○道徳性の諸様相には、特に序列や段階はありません。一人一人の児童生徒が道徳的価値を自覚し、自己（人間として）の生き方についての考えを深め、日常生活や今後出会うであろう様々な場面、状況において、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践することができるような内面的資質を意味しています。 ※（ ）は中学校

Q 「特別の教科 道徳」において、内容項目はどのように変わりましたか？

A

学校種	内 容 項 目	
小 学 校	低 学 年	◇新たに加えられた内容項目 ・個性の伸長 ・公正，公平，社会正義 ・国際理解，国際親善
	中 学 年	◇新たに加えられた内容項目 ・相互理解，寛容 ・公正，公平，社会正義
	高 学 年	◇新たに加えられた内容項目 ・よりよく生きる喜び ◇統合されてできた内容項目 ・よりよい学校生活，集団生活の充実
中 学 校		◇統合されてできた内容項目 ・思いやり，感謝 ・友情，信頼 ・よりよい学校生活，集団生活の充実 ◇分割されてできた内容項目 ・自然愛護 ・感動，畏敬の念

Point



○内容項目の数が，小学校低学年では16個から19個，中学年では18個から20個，高学年では20個から22個，中学校では24個から22個となりました。

Q 新たに加えられた内容項目の指導の要点はどのようになっていますか？

A

学年	内容項目	指導の要点
低 学 年	個性の伸長	児童の長所を積極的に認め，励まし，児童が自分の長所にできるだけ多く気づき，実感していけるようにする。
	公正，公平，社会正義	日常の指導において，公正，公平な態度に根差した具体的な言動を取り上げて，そのよさを考えさせる。
	国際理解，国際親善	衣食住の中にある他国の文化に気付いたり，スポーツや身近な行事などを通じた他国との交流に触れたりしながら，他国の人々に親しみをもったり，自分たちと異なる文化のよさに気付いたりできるようにする。
中 学 年	相互理解，寛容	相手の言葉の裏側にある思いを知り，相手への理解を深め，自分も更に相手からの理解が得られるように思いを伝える相互理解の大切さに気付くようにする。
	公正，公平，社会正義	不公平な態度が周囲に与える影響を考えさせる。
高 学 年	よりよく生きる喜び	自分だけが弱いのではないということや，人間がもつ強さ，気高さについて自分自身を振り返ることで理解できるようにする。

Point



○指導に当たっては，内容項目の発展性や特質及び児童生徒の発達段階などを全体にわたって理解することが大切です。

Q 「特別の教科 道徳」の指導の基本方針にはどのようなものがありますか？

A

基本方針	小 学 校	中 学 校
(1)	道徳科の特質を理解する	道徳科の特質を理解する
(2)	教師と児童，児童相互の信頼関係を基盤におく	信頼関係や温かい人間関係を基盤に置く
(3)	児童の自覚を促す指導方法を工夫する	生徒の内面的な自覚を促す指導方法を工夫する
(4)	児童の発達や個に応じた指導を工夫する	生徒の発達や個に応じた指導方法を工夫する
(5)	問題解決的な学習，体験的な活動など多様な指導方法の工夫をする	問題解決的な学習，体験的な活動など多様な指導方法の工夫をする
(6)	道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実する	道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実する

Point



○「特別の教科 道徳」においては、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、年間指導計画に基づき、児童生徒や学級の実態に即して適切な指導を展開する必要があります。

Q 各教科等と関連をもたせた指導はどのように行くと良いですか？

A

例えば、国語科における物語文の学習，社会科における郷土や地域の学習，体育科におけるチームワークを重視した学習，特別活動における集団形成の学習など，各教科等と「特別の教科 道徳」の指導のねらいが同じ方向であるとき，学習の時期を考慮したり，相互に関連を図ったりして指導を進めると，指導の効果を一層高めることができます。

Point



○各教科等と関連をもたせた指導を行う際，各教科等と「特別の教科 道徳」それぞれの特徴が生かされた関連となるように，配慮することが大切です。

おわりに

本指導資料は、これまでも取り組まれてきた読み物教材中心の学習に加え、一部改正学習指導要領において指導方法の工夫例として新たに示された問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習、いじめの問題への対応の充実を図る学習について取り上げ、指導例として示しました。

各学校においては、「特別の教科 道徳」の全面実施に向け、児童生徒の実態等に基づき、指導内容や指導方法を決定したり、「考え、議論する道徳」の実現、すなわちアクティブ・ラーニングを視点として授業改善を図ったりするなど、指導を一層工夫することができるよう組織的・計画的に取り組を進めることが大切です。

教育委員会といたしましても、各学校の取組に対し、引き続き、必要な指導・助言や支援に努めてまいります。

なお、この度作成しました本指導資料は、旭川市教育研究会道徳指導研究部及び道徳教育に造詣の深い先生方で構成した旭川市授業力向上プロジェクト道徳チームに御担当いただき、より旭川市の児童生徒の実態を踏まえた指導資料となりました。

作成に御協力いただいた旭川市教育研究会及び道徳チームの皆様に心から感謝を申し上げます。

【作成協力者】

旭川市授業力向上プロジェクト道徳チーム

小林 豊 旭川市立永山西小学校教諭
山本 浩貴 旭川市立東五条小学校教諭
内藤 奏子 旭川市立永山南中学校教諭
則末 俊介 旭川市立永山中学校教諭

(敬称略、職名は平成28年10月現在)

この他、本指導資料編集の全般にわたり、旭川市教育委員会学校教育部において以下の者が担当した。

山川 俊巳 旭川市教育委員会学校教育部次長
菅藤真由美 旭川市教育委員会学校教育部教育指導課主幹
末木 良典 旭川市教育委員会学校教育部教育指導課長補佐
工藤 秀敏 旭川市教育委員会学校教育部教育指導課長補佐
秋元 秀夫 旭川市教育委員会学校教育部教育指導課主査
竹内 浩 旭川市教育委員会学校教育部教育指導課主査

【引用・参考文献】

- ・「小学校学習指導要領解説 道徳編」 文部科学省（平成20年6月）
- ・「中学校学習指導要領解説 道徳編」 文部科学省（平成20年6月）
- ・「わたしたちの道徳 小学校1・2年」 文部科学省（平成26年2月）
- ・「私たちの道徳 小学校3・4年」 文部科学省（平成26年2月）
- ・「私たちの道徳 小学校5・6年」 文部科学省（平成26年2月）
- ・「私たちの道徳 中学校」 文部科学省（平成26年2月）
- ・「小学校学習指導要領解説 総則編（抄）」 文部科学省（平成27年7月）
- ・「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」 文部科学省（平成27年7月）
- ・「中学校学習指導要領解説 総則編（抄）」 文部科学省（平成27年7月）
- ・「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」 文部科学省（平成27年7月）
- ・「別冊初等教育資料9月号臨時増刊『特別の教科道徳』の実施に向けて」
(株)東洋館出版社（平成27年9月）
- ・「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について（報告）」
道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（平成28年7月）

道徳の時間 指導資料

平成28年11月発行

編集・発行 旭川市教育委員会学校教育部教育指導課